

## 安全な都市をつくる緑の課題

地震・水害・風害・火災などの災害から都市や市民を守る緑の機能を有効に発揮させるため、本市の緑の骨格となっている河川・水路周辺に緑を確保することや、市街地内において公園などのオープンスペースや街路樹の整備を進めることが求められます。

安全な都市をつくるための緑の課題を整理します。

### 災害の防止に役立つ緑を保全・創出する

災害を最小限にとどめるうえで、緑が果たす役割は重要です。また、火災に強い都市づくりのためには、市街地内にある公園などのオープンスペースや街路樹の整備が重要ですが、現状として不足している状況であり、積極的な整備が必要です。

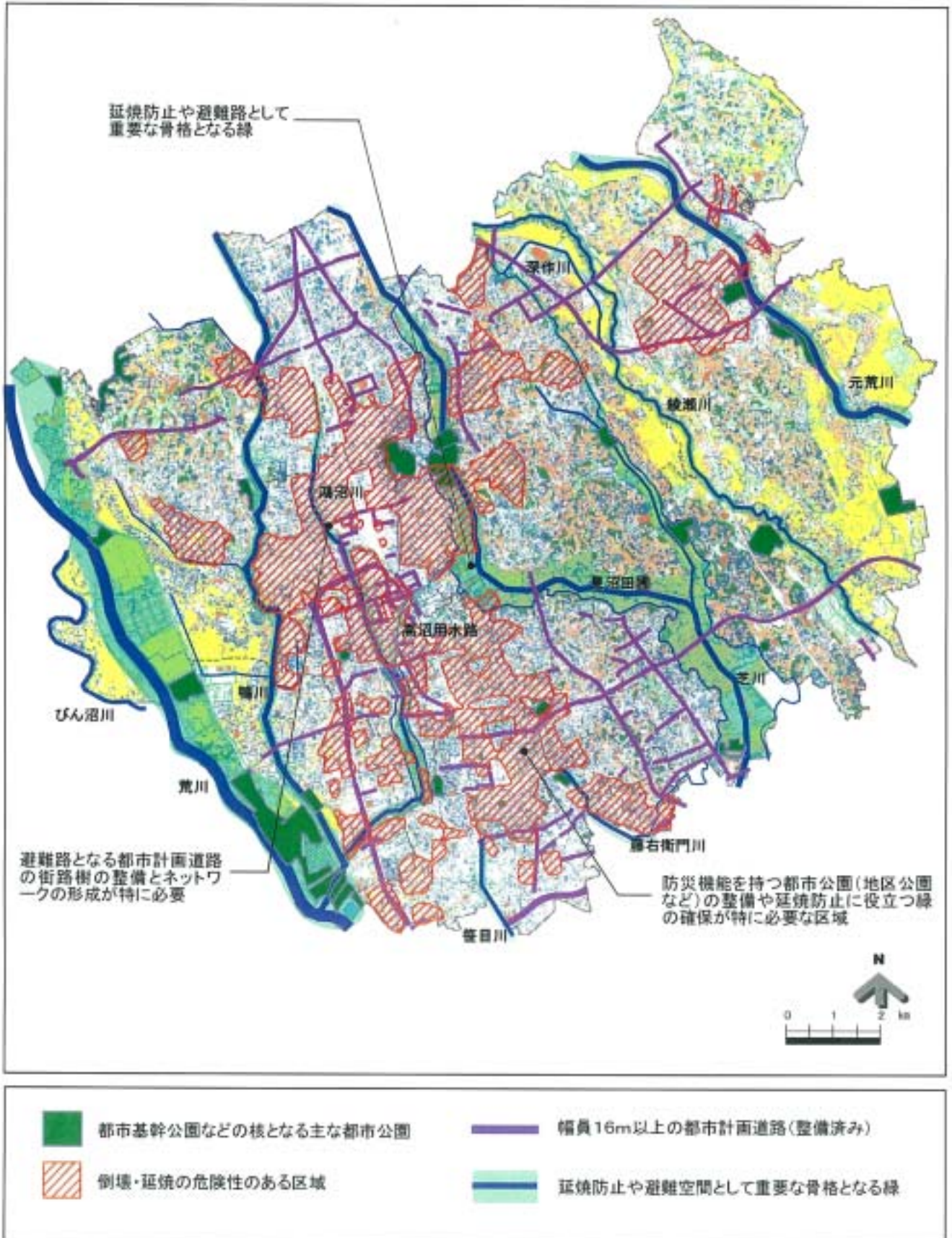
- 芝川・藤右衛門川・笹目川・鴻沼川などの河川は、流域内の都市化が進んでおり、雨水を地中に浸透または保水させる機能が低下していることから、河川周辺の保水機能のある樹林地や農地を保全する必要があるほか、これらの河川とともに調節池などの整備が必要です。
- 地震などによる建物倒壊の危険性と延焼の危険性があるエリアは、主に鉄道線の両側に広く分布しています。特に、大宮区・中央区・浦和区では大半がそのエリアとなっているため、河川と周辺の農地や樹林、氷川参道、街路樹のある道路などは地区レベルの延焼遮断帯として、また公園、農地や学校などの公共公益施設の緑は、身近な遮断帯として重要であり、その保全と整備が求められます。

### 避難体系上重要な緑を保全・整備する

安全に避難できる場所と避難路となる緑として、公園緑地、公共公益施設や街路樹が整備されている道路が重要です。特に、東西方向を結ぶ広幅員の道路の整備が立ちおけている状況にあるため、その整備が求められます。

- 「さいたま市地域防災計画」では、避難場所として小中学校・公民館など246箇所、一時避難場所として公園・広場など77箇所が指定されており、これらの施設における緑の確保と施設に至るまでの安全なルートを確保することが重要です。また、広域避難場所となる大規模な都市公園の整備が求められます。
- 避難場所に指定されていない都市公園も、焼け止まり効果がある重要な緑です。しかしながら、市街化区域の街区公園の約6割が1,000㎡未満の小規模な公園であり、地区公園も全市域で3箇所の整備にとどまっていることから、身近な公園の整備が求められます。
- 東西方向を結ぶ街路樹や歩道がある道路の整備は立ちおけているため、避難路となる道路の整備が急務です。
- ブロック塀の倒壊は、人を傷つけたり避難路を妨げたりするため、接道する部分を生垣とするなど、緑を確保することが重要です。

課題図



(参考:「震災予防のまちづくり点検マップ」平成15年 埼玉県)

## さいたま市らしい魅力ある景観をつくる緑の課題

さいたま市らしい郷土の景観を形成している要素には、緑を伴っているものが多くあります。このような緑については、保全するとともに良好に育てていく必要があります。

さいたま市らしい魅力ある景観をつくるための緑の課題を整理します。

### 代表的な郷土の景観や優れた歴史・文化の景観を形成する緑を保全する

本市には自然的な特性を持つ緑や、郷土の景観を形成するさまざまな緑が分布しています。また、岩槻城址、見沼田圃や盆栽村など、長い年月をかけて人のかかわりで培われてきた文化的な遺産も豊富で、緑の資源として保全・育成していくことが必要です。

- 見沼田圃一帯には広がりのある農地の景観と斜面林による緑のふちどりが形成されています。特に、加田屋付近などは、見沼田圃らしい水田の景観が残されており、江戸時代の灌漑用水池、その後の新田開発という歴史性も踏まえ、貴重な緑の景観として大切にしていける必要があります。また、荒川一帯は広大な河川敷と田園の景観が、元荒川には豊かな水辺の景観が形成されています。これら見沼田圃、荒川、元荒川は、自然景観の骨格となっています。
- 氷川神社一帯は、市街地における緑の島といえる存在であり、それに続く氷川参道の並木は、市を代表する景観資源です。また、鴨川・鴻沼川・芝川・加田屋川などの河川はうるおいのあるイメージを与えており、鴨川の桜並木や見沼代用水緑の遊歩道の桜並木は、重要な景観資源として市民に親しまれています。
- 西区北部や見沼区南部、緑区東部、岩槻区北部・南部の樹林地・農地が広がる区域では、起伏のある地形とあわせて武蔵野の面影を感じさせる景観が形成されており、保全が求められます。
- 盆栽村は、関東大震災後に盆栽業者が移り住んだのがきっかけで誕生し、日本屈指の盆栽郷としてその名が知られている地区であり、緑と一体となったまちなみが風格のある文化的な環境を形成しており、保全と育成が必要です。
- 遺跡や史跡としては、側ヶ谷戸古墳群・真福寺貝塚や岩槻城址などが分布しており、緑の要素としても重要です。社寺としては、氷川神社をはじめとして、豊かな緑がある社寺が分布しており、地域の歴史を伝える緑として保全が必要です。

### 都市的な景観を形成する緑を創出する

新しい開発事業による都市空間や鉄道駅周辺などにおいては、一定の緑が創出されていますが、一部にはうるおいを感じない市街地もあり、緑を確保する必要があります。

- 中心市街地では全体的に緑は少なく、特に鉄道沿線はそれが著しいため、用地の有効利用や屋上緑化・壁面緑化・人工地盤緑化などのさまざまな手法を含めて緑を創出していくことが求められます。
- 駅は、まちの玄関です。第一印象を高め、そこに暮らす市民の誇りを育てていくために、緑を活かして景観的なイメージを向上することが求められます。
- 新幹線沿線の空地は、地域の景観を分断する構造物とともに、良好な景観を妨げているため、地域の状況などを踏まえた計画的な整備が必要です。
- 幹線道路の緑は、市街地にうるおいや緑が多い印象を与える要素として重要です。また、公共公益施設や大規模な民間施設においても緑を活かした良好な景観形成が必要です。
- 身近な景観づくりとして、花や緑を活かし、生垣緑化やベランダ緑化、ガーデニングなどによる緑づくりも求められます。

課題図

